地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2019
1月
No.56

兵庫県立尼崎総合医療センター
Amagasaki General Medical Center (AGMC)

[巻　頭]

病院長　新年のご挨拶

[診療科紹介] 呼吸器内科／呼吸器外科

●[AGMCニュース] 咽喉頭がんの根治と機能温存を両立させる『低侵襲内視鏡下経口的手術』

●セミナーのご案内　●スタッフのつぶやき　●ぶらり～っと病院探訪

病院長
新年のご挨拶

迎春

兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長　平家 俊男

【第２ステージに突入真っただ中】

「兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）」は開院３年半が経過しました。

昨年は、稼働率94.6%、在院日数10.6日、救急車32件/日（2018年4月～10月）と、多くの患者さんにご利用頂きました。しかし、私たちはまだ発展途上にあります。「満員の乗客を乗せて飛び上がった大型の新型ジャンボ機」が、社会が求めるルートを着実にかつ安全に飛行するためには、機長とともにクルー全員（各部門の長とともに職員全員）が、引き続き社会のニーズを先取りし、自ら積極的に変化（進化）していく必要があります。

＜継続して「目指すこと」３項目＞

❶本格的地域完結型医療の推進・充実！
❷医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院！
❸量から質へ！

本格的地域完結型医療の推進・充実

本院の役割は、尼崎市のみならず、人口約175万人の阪神医療圏＋約45万人の大阪市西部地域の医療・介護全体と連携・協調し、日本に誇れる質の高い高度急性期・高度専門・先端・政策医療の部分を担うことです。さらに、日本に誇れる質の高い診療内容を担保するため、研修・教育・研究も重点課題です。AGMCは、ベッド数730床、医師数363名、看護師1,165名、職員数2,000名強を擁し、充実したER型救命救急センター、ICU・CCU等の重症系病床、低侵襲心血管治療センター、ハイブリッド手術室やロボット手術室を含む19の手術室、最新鋭のがん診断・治療設備等がフル稼働しています。

第2ステージに突入したAGMCに求められることは、これらの充実した資源・設備が緊密に連携・協調することにより、あたかも、いろいろな臓器・器官が連携・協調してしなやかな動きを見せる生命体のように、柔軟な病院組織に編み上げることです。それにより、地域の医療・介護全体との一層の連携・協調が可能になります。

医療のみならず、マネジメント・サービスでもトップの病院

生命体において、いろいろな臓器の連携・協調を取り持つものは、血液、神経を介する伝達物質です。これに相当するものが、マネジメント・サービス（の向上）です。職員全員が、当事者意識とともに病院全体を視野に入れて、どのような取り組みがマネジメント・サービスの向上に繋がるか、常に頭の片隅におきながら、知恵を出し合いましょう。

量から質へ

AGMCは建物・設備等の量的面ではかなり充実してきました。これからは、高度専門医療の充実（特にがん診療の充実）、PFM（patient-flow-management）の充実（緊急入院への適応拡大、外来・入院・退院・転院全体を見渡す対応）、医療安全、職場環境等、様々な局面での質的面での充実が、第2ステージに突入したAGMCに求められます。

本院は、地域の皆さんとともに歩んでいく病院です。職員一同、皆さんの健康を守るため、一層の工夫・改善を積み上げてまいります。皆さんの一層のご支援、ご鞭撻、ご協力をお願い申し上げます。

平成三十一年一月一日

兵庫県立尼崎総合医療センター 病院長　平家 俊男

呼吸器内科

あらゆる呼吸器内科疾患に対し、最新の知見に基づいたチーム治療を提供いたします

昨今、全国的に呼吸器内科医不足が指摘されています。一方高齢化に伴い、当地域におきましても呼吸器疾患に罹患される患者数は今後10年間で約40%も増加すると予測されています。このような厳しい状況の中、尼崎総合医療センター呼吸器内科は豊富なマンパワーを生かし、あらゆる呼吸器疾患に対応し、多職種連携しながら診察にあたっております。

組織構成

平林正孝副院長　遠藤和夫部長（兼ICT科長）をはじめとした総勢17名（うち女性4名）で診療を行っています

提供する活動内容

平日午前、午後ともに2F Cブロックにて外来診察を行っています。気管支喘息、COPD、肺炎、肺癌、間質性肺炎等、各診療ガイドラインに準拠した治療を行っています。またかかりつけ医と連携しながら診療に取り組んでいます。
入院患者さまはチーム制で診療に当たっています。早期退院を目指し、リハビリテーション、栄養サポートチーム等入院後早期からチーム医療を提供しています。
肺癌等集学的医療が必要な疾患については、呼吸器外科、放射線治療科、緩和ケアチームなどと共に定期的に治療方針を相談する機会を設けています。患者さまに寄り添い常に最善の治療を提供するよう努めております。

呼吸器内科 部長
遠藤 和夫

- 日本呼吸器学会専門医、指導医
- 日本内科学会認定内科医
- ICD

副院長・呼吸器内科 部長
呼吸器内科 科長
平林 正孝

- 日本呼吸器学会専門医、指導医
- 日本内科学会認定医

患者さんや地域医療機関へのメッセージ

呼吸器内科疾患で精密検査が必要と判断した際、当院内でほぼ完結します。短期間で診断から加療まで導けると自負しております。日常生活、診療の中でお困りの事がございましたら、お気軽にご相談ください。

呼吸器外科

呼吸器外科は常に患者様のQ.O.L.を第一に考えます！

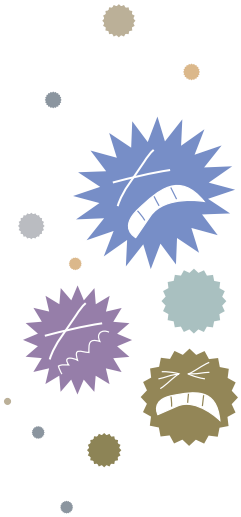
呼吸器外科は2006年に県立尼崎病院と県立塚口病院が機能分担をし再編された折に県立尼崎病院に集約されました。現在では6名のスタッフで協力し、年間300例以上の全身麻酔下手術を続けております。新病院では月曜日から金曜日まで毎日手術枠を頂いており、待機手術はもとより常時緊急患者様に対応可能となりました。当科もスタッフが補強され、通常の予定手術を行っているときでも胸部外傷などの緊急手術に対応できるようになり一層充実した診療体制を確保しております。

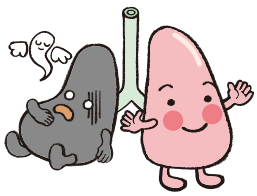
左から：湯浅医師、阪井医師、深田医師、糸井医師、武智医師、金咲医師

呼吸器外科 科長

糸井 和美

- 日本胸部外科学会指導医・認定医
- 日本呼吸器外科学会指導医・専門医・評議員資格
- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本呼吸器内視鏡学会指導医・気管支鏡専門医





【全身麻酔症例と肺癌症例の推移】

	2015年	2016年	2017年	2018年（1~10月）
全身麻酔下手術	256	280	300	296
肺癌手術	79	104	133	133

診療内容の紹介

医療器具の進歩に伴い、呼吸器外科領域の手術も低侵襲な手術が広く行われるようになってきました。当科でも胸腔鏡というカメラを使いながら小さな切開創でおこなう手術が全体の8割を占めております。肺癌の手術はもとより、縦隔腫瘍の摘出術においては従来心臓の前にある胸骨を縦に割って手術をする胸骨正中切開による侵襲の大きな手術を行っていました。現在は、片側の小開胸を行い、胸腔鏡を利用して手術を行ない患者様に喜ばれております。

対象とする疾患

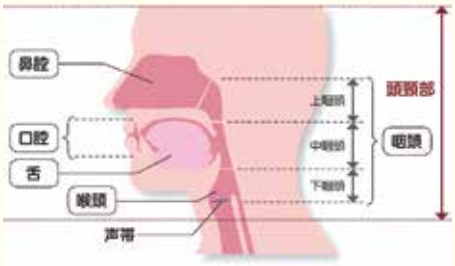
肺癌・縦隔腫瘍などの腫瘍性疾患から真菌症・結核・膿胸などの炎症性疾患も手がけています。年間の呼吸器外科初診約300例、年間の全身麻酔手術症例300例以上を行っております。その内の約3分の1強が肺癌症例で、肺悪性腫瘍全般では全症例の４割を占めます。気胸症例が約5分の1で、結核や真菌症などの炎症性疾患が約10%になっております。

AGMC ニュース

咽喉頭がんの根治と機能温存を両立させる『低侵襲内視鏡下経口的手術』

▶ 咽喉頭がんについて

頭頸部の解剖▶



咽喉頭(咽頭や喉頭のいわゆる『のど』)は食事の飲み込みや呼吸、発声など、人が生きていくうえで非常に重要な役割を果たしています。そのため、咽頭がんや喉頭がんの治療では、がんを治すだけでなく、治療後の生活を考えて飲み込みや発声の機能をいかに残せるかも重要です。咽頭がんや喉頭がんの治療には手術と放射線治療があります。以前は首の皮膚を切って外側からがんを切除する手術が広く行われてきましたが、近年はのどを温存するために放射線治療が多くの施設で行われています。のどを残しながらがんを治療するという点で有効な治療法ですが、放射線治療には副作用があり時に深刻な問題(口の中がカラカラに乾く、食べ物がうまく飲み込めなくなる、誤嚥(食事が気管に入ること)を繰り返すなど)が起こります。

▶ 内視鏡下経口的手術

そこで当院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科では、できるだけ飲み込みや発声の機能を残しつつがんを根治することを目的として内視鏡下経口的手術を積極的に行っています。すべての操作を口から行うため、皮膚に傷をつけずに手術を行うことができ、必要最低限の範囲でがんを切除するため、手術後の飲み込みや発声の機能低下をおさえることができます。また治療期間も約2週間と放射線治療(約7週間)に比べて短く、早期に社会復帰可能です。ただし、すべての咽頭がんや喉頭がんにこの手術が適応というわけではなく、進行度合いによっては頸部外切開による拡大手術や放射線治療を選択した方がいいこともありますので、患者さまと十分に相談のうえ治療方針を決めさせていただきます。

▶ 受診を希望される方へ

受診を希望される場合、当院の地域医療連携センターを通して、頭頸部がん診療の窓口となる『頭頸部外科外来』(毎週月・木/担当:隈部)の受診予約をお取りください。詳細は兵庫県立尼崎総合医療センターホームページの『医療関係の方へ』をご参照ください。

連絡先:兵庫県立尼崎総合医療センター　地域医療連携センター
●電話:06-6480-7720(直通)　●FAX:06-6480-7721

■手術チーム
住友Ns. 高見Ns. 隈部Dr. 大槻Dr. 初川Dr. 大野呂Dr. 福田Dr.
西村Dr. 藤堂Ns. 佐々木Ns. 吉田Ns. 関Dr.

セミナーのご案内

第73回 市民すこやかセミナー

テーマ 『股関節、膝関節の痛み予防エクササイズ!』

【講　師】県立尼崎総合医療センター
●整形外科 医師 野口　隆　●リハビリテーション科 理学療法士 福田 龍太

【日　時】平成31年2月22日(金曜日)　午後2時～3時30分(開場1時30分～)

【場　所】県立尼崎総合医療センター 講堂(1階) 定員:120名(参加費無料・予約不要)

★お問い合わせ：県立尼崎総合医療センター　地域医療連携センター ☎ 06-6480-7000(代表)

スタッフのつぶやき

皆さん、私のこと知っていますか…？

ナースイメージキャラクター「あまいるちゃん」

AGMCの元気で明るい新人ナース「あまいるちゃん」です。出身は尼崎市。5月生まれのふたご座です。尼崎の「あま」とスマイルの「いる」であまいるちゃん、頭についているのは尼崎の木 ハナミズキです。AGMCナースイメージキャラクターとして、AGMCのことを知ってもらえるように頑張っています。色々なところで私をみかけたら「頑張っているね。」と声をかけてくださいね。お休みの日は、お友達と温泉旅行に行ったり、ダンスをしたりしてリフレッシュしています。よろしくお願いします。

あまいるちゃん

ぶらり～っと病院探訪

特別室

病院全体で9階東、10階西、11階東に1室ずつの3室しかない特別室を訪問させていただきました。広さは約31㎡と通常の個室が約11～14㎡なのでほぼ倍以上あり、かなりゆったりとしていました。主な設備は壁掛けの無料テレビ、無料冷蔵庫、トイレ、バス、シャワー、キッチン、デスク、応接セット等ホテル並のアメニティーです。窓からの眺めも良く、病気で沈みがちな気分も晴らしてくれそうです。病気をしないことが一番なのですが、もし病気をしてもこの部屋なら、周囲の喧噪から隔離されており、まさに静養ということばが当てはまるのではないでしょうか。病院の投書箱からは、「キッチンで簡単な食事が作ることができたのでよかった。」、「職場と連絡をとりながら仕事をすることができて助かった。」などのご意見をいただきました。特別室でさらに快適に過ごしやすくなるにはこんな方法があるよ、等のご意見がありましたら是非総務課までご連絡ください。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年はラグビーのワールドカップが9月に日本で開催されます。ラグビーは様々なタイプの選手が多様な技を駆使して相手の陣地へと突き進んでいく多様性のあるスポーツですね。あまが咲だよりの編集作業も同様に様々な職種の職員がアイデアを出し合って情報発信を行うように努めております。本年も当センターと「あまが咲だより」をよろしくお願いいたします。

（六甲山の亥）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社